

没後50年特別企画展・第1弾



筆をかまっついで



清水崑の軌跡

2024.2.27.Tue ----> 7.7.Sun

清水崑展示館

連絡先：095-827-6890 / 開館時間：9:00～17:00

入館料：一般100円、小中学生50円



筆をかついで

清水崑の軌跡

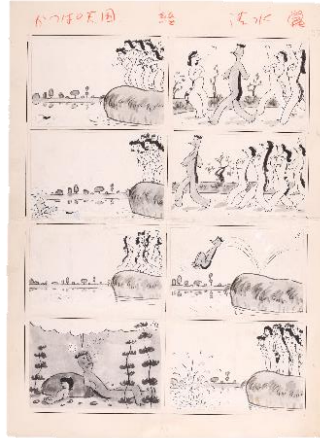
書籍化の際の原画
9コマで1話を構成
している

昭和期にかっぱブームを巻き起こした漫画家・清水崑。

彼は、怖い妖怪ではなく、人間味あふれる親しみやすい存在としてかっぱを描いた。かくして、かわいい子どもかっぱや艶やかな女かっぱなど、魅力的なかっぱたちが生まれたのであった。

「崑かっぱ」と呼ばれるほど、かっぱ漫画で有名となった清水崑だが、彼の絵の出発点は、実は似顔絵にある。人物を観察し、特徴やその人らしさをつかみ、ユーモアを交えて描いた。当時の著名人と対談した際の文章とともに「似顔絵」を新聞で連載するなど、生涯に渡ってたくさんの似顔絵を描いている。また、社会情勢などを一コマで描く「政治漫画」でも持ち味を生かし、表情豊かに描いている。他にも、書籍の表紙や挿絵など、その仕事は多岐にわたった。本人曰く「運命を自ら拓いたという経験など一ぺんもなく、投書と競争と喧嘩の味を知らず、なんということなく、流れ任せの浮きカッパに終始して今日に至りました」とのこと。しなやかに飄々としながら我が道を進む清水崑は、昭和期の激動の時代にあって、幅広く活躍した漫画家の一人といえる。

今回の没後50年特別企画展の第1弾では、かっぱ漫画はもちろん、政治漫画や著名人の似顔絵、著書『筆をかついで』の挿絵から故郷長崎を描いた原画、さらに当館所蔵アルバムより清水崑の人柄が伝わる写真などを展示し、清水崑の活躍を振り返る。見たことがある！と懐かしく思う方も、知らなかった！と初めて絵を見る方も、この機会に清水崑を知って、作品をゆっくりとご堪能ください。



1.



2.



3.



4.



5.



6.



7.

1.かっぱ天国(終回) 2.『かっぱ川太郎』朝日新聞社、昭和27年刊 3政治漫画(訪米、沖繩返還のメド) 4.似顔絵「今日出海」 5.似顔絵「石原裕次郎」 6.『びんぼう自慢』古今亭志ん生(著)・清水崑(装丁・挿絵) 7.『のんびり小僧の大旅行』清水崑作



清水 崑
(1912~1974)

大正元年(1912)9月22日、長崎市銭座町(現・天神町)に生まれる。長崎商業高校卒業後、上京し、街頭で似顔絵を描きながら生活する。文芸春秋社の雑誌の挿絵を執筆したことをきっかけに、横山隆一らの新漫画派集団に参加。昭和10年(1935)『新青年』に「東京千一夜物語」を連載、後に映画化された。

戦後、『新夕刊』で政治漫画を担当し、昭和22年(1947)に朝日新聞社の嘱託となり政治漫画を連載する。当時の首相吉田茂の似顔絵は本人のお墨付きをもらうほど。風刺の中にユーモアを交えた漫画は人気を呼んだ。昭和26年(1951)創刊の『小学生朝日新聞』に掲載された、子どものかっぱを主人公とした「かっぱ川太郎」や大人向けの「かっぱ天国」は彼の代表作といえる。

また、故郷・長崎をこよなく愛し、ライフワークとして長崎の行事を遊ぶかっぱの作品を制作した。長崎でも個展を開催している。

昭和49年(1974)3月27日、61歳にて没す。



茶目っ気
たっぷりな一枚

▲清水崑アルバムより

長崎市中の茶屋・清水崑展示館

住所：長崎市中島1丁目4番2号
交通アクセス：
只思案橋電停 または 思案橋バス停を下車
丸山方面へ徒歩10分

*市指定史跡中の茶屋
遊女屋「中の筑後屋」の茶屋があった場所で、
庭園が遺されている。

